

〈外国語〉

英語で書く力を育成するリテリング活動の授業づくり

——情報量の段階的増加とピア・フィードバックを通して（第2学年）——

沖縄県立那覇西高等学校教諭 仲 程 順

I テーマ設定の理由

急速なグローバル化に伴い、外国語によるコミュニケーション能力は生涯にわたり様々な場面において必要とされている。また、進化した人工知能（AI）が日常生活へ浸透し始め、言語を異にする人々がAI翻訳ツールを介して意思疎通するなど、絶え間ない技術革新は外国語によるコミュニケーションの方法へも影響を与えている。このような時代において、生徒が「知識及び技能」のみを習得するのではなく、それらを活用する「思考力、判断力、表現力等」を育成することが、学校教育には求められている。『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編』（以下、『解説外国語編』）では、他者とのコミュニケーションの基盤を形成する視点を重視し、五領域の統合的な言語活動を通して、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」と外国語科の目標として定められた。

これまでの授業や実用英語技能検定のライティング問題の対策指導において、英文をどのように書くと良いか、何を書いたら良いかわからないなど、英文を書く手順がわからず、「書くこと」を苦手とする生徒の様子が見られた。そのため、「思考力、判断力、表現力等」を育成することを目指し、生徒自身が教科書本文を読むことにより得た情報や考えを英語で伝える、リテリング活動を実施していた。この活動では、語順ヒント（WHO, DO, WHAT, WHEN, WHERE, HOW, WHY）や教科書本文の内容に関連したイラストやキーワードをワークシートに掲載することにより、生徒のリテリング活動を促すことを試みた。しかし、この指導方法には2つの課題があり、教科書の英文をそのまま利用した複写的「リプロダクション」が生徒に見られた。本文とほぼ同じ言語形式である限り、「知識及び技能」を活用した「思考力、判断力、表現力等」を育成する活動とは言い難い。また、リテリング活動後の生徒へのフィードバック方法が、教師からクラス全体への一方的な形式となっていたため、生徒一人ひとりが自分の発話について振り返り、その発話を改善するための十分なフィードバックを与えられていなかったと考える。

そこで本研究では、リテリング活動において、書く情報量を段階的に増やし、生徒相互のピア・フィードバックを取り入れる。具体的には、単純な英文要約から、文字数や伝える情報、自身の意見を追加し、書き伝える量を増やしていく系統的なリテリング活動を行い、パフォーマンス課題として単元内容のボランティア活動における「那覇西高校生徒会企画作成」を設定する。また、佐々木啓成(2020)は、「リテリングの方法は『話す』と『書く』の2つの形式に分けられ、書くことにより、教科書本文と生徒自身の英文を比較し、筆記の誤りに気づきやすくなり、修正することができる」と示していることから、リテリング活動毎にICTを活用した生徒相互のフィードバックを取り入れ、自身の学習過程を把握する時間を設定する。これらの活動を通して、生徒が習得した語彙や文法を活用しながら情報や考えを整理、再構築していくことで英語で書く力を育成できようと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

リテリング活動において、書く情報量を段階的に増やし、生徒間のフィードバックを行うことで、

習得した「知識及び技能」を活用し、英語で書く力を育成することができるであろう。

II 研究内容

1 英語で書く力を育成する指導の工夫とは

(1) 英語で書く力とは

はじめに、『解説 外国語編』の目標と、その言語活動を設定する際に参照された Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment (以下、CEFR) では、言語を運用して何ができるかを示した熟達度を「基礎段階の言語使用者」である Pre-A1 から「熟達した言語使用者」である C2 の7段階に設定している。日本の高校生は、CEFRの A2 レベルの運用能力を身につけることが求められており、CEFRの A2 レベルのライティング全般 (Overall Writing Production) では、「“and”, “but” や “because” のような平易な接続詞を伴い、複数の平易な句や文を産出することができる。」と定められている。また『解説 外国語編』における、「書くこと」の目標は、表1で示すように「日常的话题」と「社会的な話題」に分けて設定されている。どちらの話題についても、理由や根拠を明らかにすることとともに、論理の一貫性に注意しながら、複数の段落から構成される文章が書けるようになることが、目標として定められている。

表1「書くこと」の目標

ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。
イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

以上CEFRの A2 レベル、『解説 外国語編』で定められた「書くこと」の目標や本研究の対象となる単元を踏まえて、本研究では英語で「書く力」を表2のように定義する。そして、単元の最後に設定するパフォーマンス課題 (後述) で生徒が書いた内容を見取ることで検証する。

表2「英語で書く力」

社会的な話題について、and, but や because などの接続詞を用いて、根拠や理由を提示し、読んだ内容を基に情報や考え、気持ちなどを複数の段落からなる文章で書いて伝えることができる。
--

(2) 「書くこと」の活動において必要となる能力

言語活動は「読むこと」

と「書くこと」の活動が関連するなど、複数領域の活動が統合的に行われる場合が多い。しかし、「書くこと」のみに注目した場合、飯島睦美 (2020) によると書く活動においては、表3に示す5つの能力が複層的に関わっている

表3「書く」活動において必要となる能力

① 書字力	文字が正確に書ける。
② 語彙知識	理解だけでなく使用できる語彙を持つ。
③ 統語・文法力	文を組み立てる構造上の知識を持つ。
④ 知識	内容に関連する知識を持っており、適時想起できる。
⑤ 構成力	情報を効果的に配置できる。

とされている。これら5つの能力は個人差があり、「書くこと」の目標達成に向けて生徒の英文を指導するためには、生徒自身が学習過程を把握することができる場面も複層的、または段階的に設定することが必要であると考えられる。

(3) 英語で書く力を育成する指導の工夫について

(2)で述べたように、「書くこと」の活動には5つの能力が複層的に関連しており、各々の能

力は生徒間で個人差が見られる。表3に示した④「知識」については、単元の1時間目に単元テーマに関するミニディベートを実施する。この活動を通じて、生徒各々が単元テーマについて持つイメージや考えの背景を引き出し、クラスメイトが持つ異なった経験や意見等の情報を共有することで、「書くこと」の活動に関連する知識をさらに広げていく。また、ミニディベートの際、英語で表現したい日本語リストをClass Notebook 共有スペースを活用して作成し、共有スペースに記載された表現集を参考にするこゝで、「書く」活動における自分の考えや意見を表現するための語彙知識を補っていく。表3で示した①「書字力」については、個人端末の活用により支援が可能であると考え、本研究では特に取り上げないこととする。表3で示した③「統語・文法力」と⑤「構成力」については、後述する「書く」リテリング活動とその活動中に書いた英文について、ピア・フィードバックを生徒が相互に得るこゝで支援できると考える。

2 「書く」リテリング活動における生徒間によるフィードバックとは

(1) 「書く」リテリング活動について

上山晋平(2023)によるとリテリング活動とは、「与えられたテキストを、それを見ないで他者に伝えることである。具体的には、読み聞きした情報(教科書、映画やテレビ番組、SNS)を、それらを知らない相手にも分かるように、自分の言葉で伝えること」と示している。また、佐々木(2020)によると、「リテリング活動は『話す』または『書く』形式があり、書くことにより、教科書本文と生徒自身の英文を比較し、筆記の誤りに気づきやすくなる」と述べていることから、本研究では各Section本文の読後に「書く」リテリング活動を設定し、パフォーマンス課題に向けて書く情報量を段階的に増やすリテリング活動を実施する。リテリング活動では、各Section内容の「概要を捉えて書く活動」と本文内容について「自分の意見を書く活動」に分け、書く内容の範囲を限定する。各Sectionにおける複数回の「書く」リテリング活動を通して、「概要を捉えて書く力」と「自分の意見を書く力」を段階的に育成することができると考える。

書く情報量を段階的に増やすリテリング活動の手順は、佐々木(2020)と上山(2023)を参考に表4のように指導する。③インテイクでは、「ウ.概要を捉える」、本文に対する「エ.自分の考えを持つ」ように、会話形式のQ&Aを設定する(図1)。④アウトプットでは、③インテイクで書いた英文やkeywordsを活用しながら、本文の概要と自分の考えを1つの段落にまとめ、「オ.『書く』リテリング」として書き伝える(図2)。

表4 書く情報量を段階的に増やすリテリング活動の手順

①単元の導入	ア. 単元の見通しを持つ	パフォーマンス課題やルーブリックを共有する。
②インプット	イ. 内容理解	語句や文法などの使い方を理解する。
③インテイク (リテリングの準備)	ウ. 概要を捉える	会話形式の質問に答えながら、本文の概要を把握する。
	エ. 自分の考えを持つ	質問に解答することにより、本文に対する自分の考えを持つ。
④アウトプット	オ. 「書く」リテリング	ウとエを書いた英文を活用し、Sectionの概要と自分の考えを書き伝える。

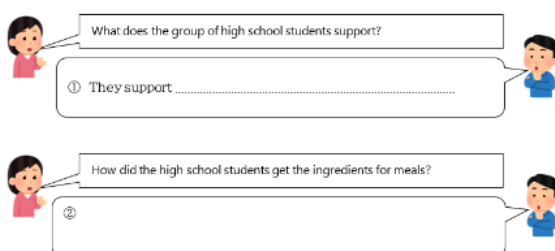


図1 会話形式の設定



図2 「書く」リテリング活動

(2) ピア・フィードバックの方法と「書くこと」の評価

Wiggins, G. (2012)によると、フィードバックとは「目標達成に向けた取り組みがどうなっているかを提供する情報である」と示されているが、1の(2)で述べた「書くこと」に必要な能力は複層的に関連していることから、学習活動に関する1回の評価から生徒が自分自身の英文について良い点や課題を把握し、改善に活かせるような十分な情報を得ることは難しいと考える。また、山下美朋(2023)によると「ライティングは書いたものを評価するのではなく、さらに良い書き手になっていく過程を評価するもの」と述べていることから、「書くこと」の活動においては、フィードバックを得る機会を複数回設定することが必要であると考えられる。そのため、本研究では各Sectionのリテリング活動の後に、「ピア・フィードバック」の時間を設定する。「ピア・フィードバック」とは生徒相互による学習に関するコメント全般のことであるが、Baker-Smemoe, W. (2018)によると「ピア・フィードバックは生徒自身の自主性を高め、自分の文章を改善する方法を認識することに役立つ」と示されている。また、Crusan, D. & Matsuda, P. (2018)は、「生徒が評価に関わることで、ライティングに関する基準を生徒自身に内在化させ、生徒の学習を促進させることができる」と述べていることから、ピア・フィードバックを通して書く活動を促し、英語で書く力を育成することができると考える。クラスメイトが書いた英文を共有し、フィードバックを相互に得る方法として、Webブラウザで使えるオンライン掲示板アプリPadletを活用する。

ライティングの基準を共有する方法として、各Section共通のルーブリック(表5)を作成する。西岡加名恵(2020)によるとルーブリックとは、「成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語からなる評価基準表」と示されている。各Sectionで設定された「書く」リテリング活動において、生徒はルーブリックに示された各レベルの記述語を参照しながら、自分の英文がどの程度書けているか把握することが可能になると考える。

表5 本研究における「書く」リテリング活動のルーブリック

観点 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	条件①を満たし、理解しやすい英文を用いて書いている。	条件②を満たした上で、時制を意識し自分の言葉を活用して、より具体的に書いている。	各セクションで紹介されたボランティア活動に関心を持ち、読み手に配慮しながら、自分の考えをより具体的に書こうとしている。
b	条件①を満たし、誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文を書いている。	条件②を満たし、時制を意識し自分の言葉を活用して、書いている。	各セクションで紹介されたボランティア活動に関心を持ち、読み手に配慮しながら、自分の考えを書こうとしている。
c	bを満たしていない。	bを満たしていない。	bを満たしていない。
条件① 各Sectionで紹介されたボランティア活動の概要を捉えている。 条件② 各Sectionで紹介されたボランティア活動について、設問について自分の考えが書かれている			

3 パフォーマンス課題について

パフォーマンス課題とは、「リアルな文脈の中で知識やスキルを使いこなすことを求める課題である」と西岡(2019)は示している。本研究では、単元の各Sectionで深めたボランティア活動に関する知識や英語の語彙・表現を活用しながら、表2で示した「英語で書く力」がどの程度生徒に身に付けることができたかを見取るため、表6で示す場面をパフォーマンス課題として設定する。また、英語で書く力を見取るパフォーマンス課題で使用するルーブリック(表7)は、リテリング活動とは分けて作成する。

表6 本研究におけるパフォーマンス課題

みなさんは、那覇西高校生徒会のメンバーです。沖縄県ボランティア活動企画コンテストに生徒会で応募することになりました。沖縄県内で取り組みたいボランティア活動について、以下2つの内容を含めて、企画案を作成してください。

① ボランティア活動の内容とその活動を実施する場所の現状
 ② ①の活動を提案する理由と活動を実施することで、どのような改善結果となるか。

表7 本研究におけるパフォーマンス課題のルーブリック

観点 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	条件①を満たし、理解しやすい英文を用いて書いている。	条件②を満たした上で、時制に関する表現を区別し、より具体的に4文以上書いている。	2つの条件を全て満たした上で、読み手に配慮しながら、自分の考えや意見をより具体的に書こうとしている。
b	条件①を満たし、誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文を書いている。	条件②を満たした上で、時制に関する表現を区別し、3文書いている。	2つの条件を全て満たし、読み手に配慮しながら、自分の考えや意見を書こうとしている。
c	bを満たしていない。	bを満たしていない。	bを満たしていない。
「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の条件			
条件① ボランティア活動を実施する場所の状況を説明し、その活動内容を説明している。			
条件② 条件1で説明したボランティア活動を提案する理由とともに、何が改善されるか説明している。			

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「Lesson 3 High School Students' Volunteer Activities」

教材名 「APPLAUSE ENGLISH COMMUNICATION II (開隆堂)」

2 単元目標

さまざまなボランティア活動の目的やその活動内容を理解しその要約を書いて伝えることができ、自分で調べたボランティア活動の内容とそれに対する自分の考えを書いて伝えることができる。

3 単元の評価規準

観点 領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	① さまざまなボランティア活動の目的や活動内容について、読んだり聞いたりしたことを理解している。 ② さまざまな「完了形」の意味や働きを理解し、本文の内容や内容に関して自分の考えや気持ちなどを理由や根拠とともに書いて伝える技能を身に付けている。	③ さまざまなボランティア活動について読んだり聞いたりしながら理解し、その情報をまとめながら、自分の考えや気持ちを書いて伝えている。	④ さまざまなボランティア活動について関心を持ち、その情報を基に自分の考えや気持ちなどを書いて伝えようとしている。

4 単元の指導と評価計画 (11 時間)

表記 W：書くこと R：読むこと ◎記録に残す評価 ○指導にいかす評価

時	◇ねらい ・学習活動	評価の方法
1	◇ボランティア活動について、クラスメイトと意見を交換しよう。 ・Mini Debate “Agree or Disagree on Volunteer Activities” ・本単元の学習計画・評価方法等の確認、パフォーマンス課題とルーブリックの共有 ・本文の First Listening を通して概要を捉える。 ・Section 1 新出語彙・表現を確認し、本文の内容を理解する。 ・本文の Listening と音読	○R ○W①③④
2	◇ボランティア活動を通して高校生が持つ力について考えよう。 ・Section 1 新出語彙・表現の復習 ・Listening と本文の概要を復習する (True or False Questions) ・内容理解の問題に取り組む。 ・現在完了形と現在完了進行形について	○R ○W①②

3	◇総社市での出来事と自分の意見を書いて伝えよう。 ・ Section 1 本文の内容を復習する。 ・ Section 1 で紹介されたボランティア活動内容とその活動に関する自分の考えを書き、ペアに伝える。 ・ピア・フィードバック：ループリックを基にクラスメイトの英文へフィードバックを与える。(リテリング活動)	○R ○W①③④
4	◇ボランティア活動を通して、どのようなことが得られるか考えよう。 ・本文の First Listening を通して概要を捉える。 ・ Section 2 の新出語彙・表現を確認し、本文の内容を理解する。 ・本文の Listening と音読 ・過去完了形と過去完了進行形について	○R ○W①②
5	◇倉敷古城池高等学校の生徒の活動と自分の意見を書いて伝えよう。 ・ Section 2 本文の内容を復習する。 ・ Section 2 で紹介されたボランティア活動内容とその活動に関する自分の考えを書き、ペアに伝える。 ・ピア・フィードバック：ループリックを基にクラスメイトの英文へフィードバックを与える。(リテリング活動)	○R ○W①③④
6	◇駿台総合高等学校の生徒の活動を通して「エシカル消費」を理解しよう。 ・本文の First Listening を通して概要を捉える。 ・ Section 2 の新出語彙・表現を確認し、本文の内容を理解する。 ・本文の Listening と音読 Section 2 ・未来進行形について	○R ○W①②
7	◇駿台総合高等学校の生徒の活動と自分の意見を書いて伝えよう。 ・ Section 3 本文の内容を復習する。 ・ Section 3 で紹介されたボランティア活動内容とその活動に関する自分の考えを書き、ペアに伝える。 ・ピア・フィードバック：ループリックを基にクラスメイトの英文へフィードバックを与える。(リテリング活動)	○R ○W①③④
8	◇各 Section の内容と振り返り、英語の時制表現を復習しよう。 ・各 Section の概要や英語の語彙・表現を復習する。 ・本単元で学習した文法項目を復習する。	○W①②③
9	◇ボランティア活動について調べ、自分の考えをまとめる。 ・パフォーマンス課題の内容確認とループリックの再確認 ・パフォーマンス課題に向けた調べ学習	○W①③④
10 (本時)	◇これまで学習したことを活用しながら、ボランティア活動について自分の考えを書いて伝える。 ・パフォーマンス課題とループリックの再確認 ・パフォーマンス課題	◎W②③④
11	◇Lesson 3 で学んだことを振り返る 事後アンケート	

5 本時の指導 (10/11 時間)

(1) 本時の目標

既習内容を活用し、ボランティア活動について自分の考えを書いて伝える。

(2) 展開

本時の展開		
過程	学習活動・内容	指導上の留意点・評価等
導入	①本時の学習内容とパフォーマンス課題の内容を確認する。 ②ループリックで提示された条件①と②を確認する。	・文法や語順、スペル等のミスに注視するのではなく、ループリックで提示した条件に沿った内容を書くよう促す。
展開	③パフォーマンス課題 ④自分の解答用紙の写真を個人端末で撮影し、Teams の「課題」として提出する。 ⑤ピア・フィードバック ⑥Padlet を利用して、パフォーマンス課題で書いた英文を投稿する。	・課題のループリックに提示された条件①と②を満たすように課題に対する自分の考えを書く。 ・ループリックを参考にクラスメイトの英文にコメントを記入する。
まとめ	⑦Lesson 3 の学習への取組やパフォーマンス課題について、Forms で振り返る。	

IV 仮説の検証

研究仮説に基づき、リテリング活動において段階的に書く情報量を増やし、生徒間のピア・フィードバックを行うことで、表2で定義した「英語で書く力」を育成できたかを事後アンケートや生徒の英文、パフォーマンス課題の結果から検証する。

1 段階的に書く（リテリング）活動において、概要をまとめ自分の意見を書くことができたか

段階的に書く活動では、会話形式の設問に書き答えながら本文の概要を捉える活動と、本文に関して自分の考えを書く活動に分けて設定した。これらの活動を通して、「概要を捉えて書く力」と「自分の意見を書く力」を育成することができたか、アンケート結果と生徒の英文を基に検証する。「本文の内容を問う質問に書いて答えることで、本文の概要をまとめることができた。」という設問に対して、図3で示すよう42.4%が「そう思う」と答えた。また、「各Sectionの質問に対して、自分の意見を持ち、英語で書くことができた。」(図4)という設問において、45.5%の生徒が「そう思う」と答え、「少しはそう思う」と回答した生徒を合わせると全体の約90%が肯定的に回答した。次に、「書く」リテリング活動で生徒が書いた英文を分析する(表8)。スペリングや表現、文法の誤り(下線部ア・イ)が一部見られるが、本文の概要を3文でまとめ、さらに教科書の本文をそのまま抜き出すのではなく、生徒自身が学習した英語を活用して本文の概要を表現し(下線部ウ)、最後に自分の意見を追記し書き伝えている(下線部エ)。

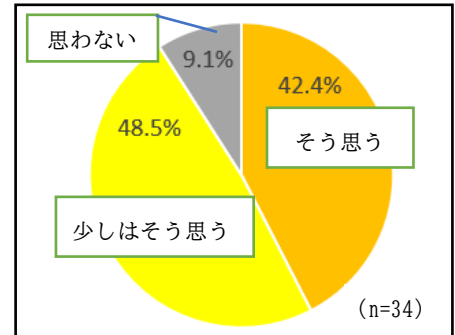


図3 「概要を捉え、自分の意見を書くこと」

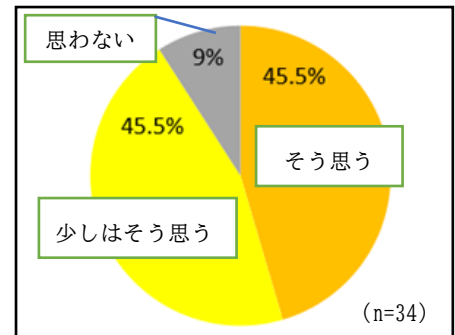


図4 「自分の意見を持ち、英語で書くことができた」

次に、書く情報量を段階的に増やす活動に関する生徒の記述(表9)を考察する。表9に示すように、この活動を通して生徒が本文に関する自分の考えを書けるようになったと肯定的に捉えた意見が見られた。これらの結果から、書く情報量を段階的に増やす活動が、本文の概要を捉え自分の意見を英語で書く力の育成に有効であったと考える。

表8 本文の概要と自分の意見(原文のまま)

生徒A	Kurashiki Kojioke High School students supported children's cafeteria. They had a sense of accomplishment <u>ア</u> by this support, such as <u>イ</u> <u>getting</u> the ingredients and making meals. They realized that they were learning many thing <u>ウ</u> <u>by the children's word</u> like "yummy", "Thank you". If I were a student in Kojioke High School, <u>エ</u> <u>I would make sweets with children</u> . 「私が倉敷古城池の生徒だったら、子どもたちと一緒におやつを作るだろう。」
-----	--

表9 書く情報量を段階的に増やす活動への回答(原文のまま)

生徒B	自分は書くことがあまり得意ではないけどこの授業で自分の思っていることが書けてよかった。
生徒C	少しずつ書けるようになったおかげで、英文を書くことへの苦手意識がなくなってきました。

2 ピア・フィードバックの効果

「書く」リテリング活動とパフォーマンス課題を終えた後に、ピア・フィードバックを実施した。検証授業後のアンケート結果とピア・フィードバックに関する生徒のコメントから、ピア・フィードバックが英語で書く力を育成することに有効であるかを検証する。「ピア・フィードバックを通して、繰り返しループリックの内容を確認し、書くべき内容や構成を把握することができたと思う。」という設問については、「そう思う」「少しはそう思う」と答えた生徒が全体の90%ほどおり(図5)、肯定的な回答が得られている。また、「ピア・フィードバックが文法の

誤りに気づき改善するきっかけとなった。」という設問に対して、「そう思う」「少しはそう思う」と9割程度の生徒が肯定的に回答している（図6）。これら2つの設問に対する回答から、ピア・フィードバックが、英語で書く力を育成することにおいて有効であったと考える。

次に、ピア・フィードバックに関する生徒のコメント（表10）を考察すると、生徒Dのコメントからは、他者から新たな考えを学ぶだけでなく、英語の表現を学習することが可能となり、表3「『書く』活動において必要となる能力」で示した「②語彙知識」を高めることに有効であると捉えることができる。また、生徒Eのコメントからは表3の「⑤構成力」を高めること、また生徒Fのコメントから「③統語・文法力」や「⑤構成力」を高めることに、ピア・フィードバックが有効であったと考える。ピア・フィードバックはルーブリックを繰り返し確認しながらお互いに改善の手立てを推敲し合うため、課題完成に求められる「知識・技能」等の情報を生徒間でより深く共有することが可能となる（図7）。相互に情報を共有し助言や改善を行うことで、英文を書くために必要とされる語彙や表現、文法等を他者から学び、自分の考えを構築、表現することができるようになったと考える。よって、書く活動におけるピア・フィードバックの実施は、ルーブリックで提示された条件や評価基準を生徒自身に内在化させ、「書く」活動において必要となる能力を高め、英語で書く力を育成することにおいて有効であると考えられる。

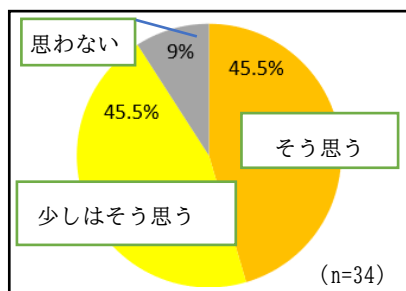


図5 「ピア・フィードバックによる内容や構成の把握」

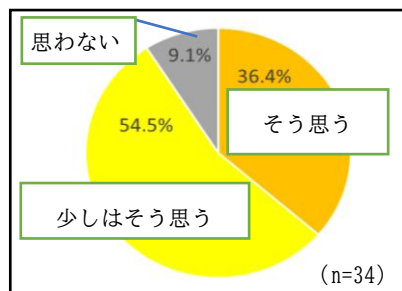


図6 「ピア・フィードバックが文法の誤りを改善するきっかけとなった。」



図7 ピア・フィードバックに取り組む様子

表10 ピア・フィードバックに関する生徒のコメント

	理由の記述（原文のまま）
生徒D	お互い交換する活動が <u>表現のミスを見つけられたり</u> 、 <u>新しい考えを得ることができたので良かった</u> 。
生徒E	ルーブリックやペアでの活動が多かったので意見を交換したりして、 <u>自分の意見をまとめることができるようになった</u> 。
生徒F	<u>文の区切りと時制をちゃんとするととってもいいと思う</u> 。

3 パフォーマンス課題の効果

(1) ルーブリックを基に生徒の英文を評価

パフォーマンス課題（図8）として生徒が書いた英文をルーブリック（表7）に基づき評価し、その結果をまとめた（表11）。数値は各観点において、その評価を得た生徒の割合を示している。パフォーマンス課題では2つの条件を設定し、その全てを満たすことで「b」以上の評価と定めている。「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」において「c」評価が見られるが、条件②を満たしていないため「c」評価

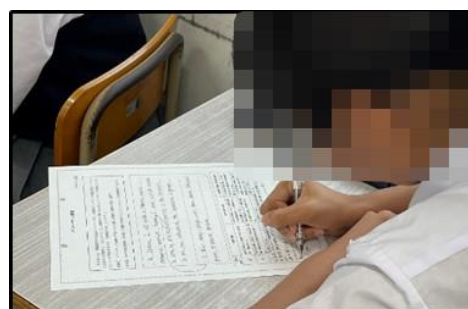


図8 パフォーマンス課題に取り組む様子

となっていた（表 12）。次に、「知識・技能」については 82.4%の生徒が「b」評価であり、「a」評価と合わせると全ての生徒がルーブリックの「b」評価以上であった。この結果より、全ての生徒がルーブリックで定めた「理解に支障のない程度の英文」を書くことができていることがわかる。「思考・判断・表現」については、「b」評価以上である生徒は 97%であり、ほぼ全ての生徒が条件②を満たし、さらに 4 文以上の英文を書くことができおり、本研究で目指す「英語で書く力」を育成することができていると捉える。また、「主体的に学習に取り組む態度」については、9割以上の生徒（97.1%）が「b」評価以上であり、単元の評価規準として定めた「④さまざまなボランティア活動について関心を持ち、その情報を基に自分の考えや気持ちなどを書いて伝えようとしている。」を満たしていると考えられる。

さらに、生徒の英文で使用された語彙や表現を分析すると、本単元で学習した現在完了形（have/has+過去分詞）や未来進行形（will be doing）、新出語彙として本文で使用されている“by doing so（「～することによって」）”、“contribute to（「～に貢献する。」）”や“distribute（「～を配布する。」）”等と既習の知識を活用し、自分の考えを述べている英文も見られた。“by doing so”の表現が最も多く使用されていたのは、パフォーマンス課題の条件②を満たすために使用されたのではないかと考える。条件②は「『条件 1 で説明したボランティア活動を提案する理由とともに、何が改善されるか説明している。』」と設定しているため、「自分の考えをボランティア活動として実施することにより」と表現するために“by doing so”が最も多く活用されたのではないかと推察する。以上のようにアンケート結果、生徒の英文、パフォーマンス課題の評価の分析から、生徒間によるピア・フィードバックが、英語で書く力の育成に有効であると考えられる。

表 11 パフォーマンス課題の結果（n=34）

領域		観点別評価		
		「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
「書くこと」	a	17.6 %	88.2 %	82.4 %
	b	82.4 %	8.8 %	14.7 %
	c	0 %	3 %	2.9 %

表 12 パフォーマンス課題における生徒の記述

	パフォーマンス課題の記述（原文のまま）	パフォーマンスの特徴	評価		
			知	思	態
生徒 A	I will plan food drive in my hometown, Itoman city. There are many single-parent families. I will collect surplus food at supermarket where people often gather to help them. For example, “San-A” is big company in Okinawa. They have a lot of their supermarket in Itoman city, so we will go the supermarket to gather surplus food to help them. We can make ends and meet at this city.	理解しやすい英文を用いており、2つの条件を満たしながら、例示することで自分の考えを具体的に書いて伝えている。	a	a	a
生徒 B	I will plan clean up the park in Tomigusuku city. It's because the park has a lot of trash. I often <u>look</u> people littering trash in the park. I think littering is bad and dirty park <u>is</u> not look good. And I think <u>clean up</u> the park, the city will be better than now. So, I want to clean up the park.	理解に支障がない程度の文法的な誤りがあるが、条件①と②を満たしている。	b	a	a
生徒 C	In Nakagusuku, I'll <u>piking up trash</u> . We will make the sea of Okinawa cleaner. By joining the volunteer, I feel that I'm contributing to society.	スペル等に誤りが一部あるが条件①のみを満たし、「何が改善されるか」について述べられていないため、条件②を満たしていない。	b	c	c

(2) 本研究で目指した「英語で書く力」を基にした分析

本研究で目指した「英語で書く力」（表2）を以下の3つに分け、それらを基にパフォーマンス課題として生徒（34名）が書いた英文を分析し、その結果を表13にまとめた。表13の（ア）、（イ）についてはほぼ全ての生徒のライティングにおいて満たされており、平易な接続詞を用いて、自分の考えやそれに対する根拠や理由を述べている。（ウ）については、34名中10名（29.4%）が段落を2つに分けて英文を書いており、4文以上のまとまりのある英文を書いてはいるものの、異なるアイディアを1つの段落にまとめていたため、（ウ）に示す「複数の段落から構成された英文」はやや少ない結果となった。今後パフォーマンス課題とそのルーブリックについて説明する際、ルーブリックの記述内容を生徒が理解するようさらに十分な時間を設定して実施していきたい。また、「英語で書く力」（表2）を定義する際に参照したCEFRのA2を基に分析すると、「“and”，“but”や“because”のような平易な接続詞を伴い、複数の平易な句や文を産出することができる。」と定められており、表13の（ア）と（イ）の数値からほぼ全ての生徒が前述のCEFRのA2に沿った英文を書くことができている。本研究で目指した「英語で書く力」は、A2レベルに十分に達していると考えられる。

表13 「英語で書く力」（表2）を基にした分析

「英語で書く力」	（ア）and, but や because などの接続詞を用いて、根拠や理由を提示している。	33
	（イ）読んだ内容をもとに情報や考え、気持ちなどを書いて伝えている。	34
	（ウ）複数の段落から構成されている。	10

V 成果と課題

1 成果

- （1）パフォーマンス課題に向けた段階的に書くリテリング活動を通して、本文の概要を捉え、本文に関する自分の考えを持ち、英語で書く力を育成する一助となった。
- （2）既習の「知識・技能」を活用して、自分の考えを英語で書き伝える力を育成することができた。
- （3）「書くこと」の活動後にピア・フィードバックを実施することで、ルーブリックで提示された条件や評価基準を生徒自身に内在化させ、「書く」活動において必要となる能力を高め、英語で書く力を育成することができた。

2 課題

- （1）パフォーマンス課題の「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」において、一部「c」評価が見られた。「書くこと」の活動やパフォーマンス課題に対して、生徒の興味・関心を引き付ける工夫や支援が必要である。
- （2）年間を通して「より良い書き手」を育成するため、パフォーマンス課題の設定内容を生徒の実態に合わせ、書く活動を継続して実施できるような年間指導計画を立てていきたい。

〈参考文献〉

- 上山晋平 2023 『英語リテリング&ショート・プレゼンテーション指導ガイドブック』 明治図書
- 山下美朋 2023 『英語ライティングの指導 基礎からエッセイライティングへのステップ』 三修社
- 飯島睦美 2020 「書くことに困難を抱える児童生徒への指導」 『英語教育』 2020年 12月号 Vol.69 No.10 大修館書店
- 佐々木啓成 2020 『リテリングを活用した英語指導 理解した内容を自分の言葉で発信する』 大修館書店
- 西岡加名恵 2020 『「資質・能力」を育てるパフォーマンス課題 アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』 明治図書
- 西岡加名恵 2019 『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』 明治図書
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』 開隆堂
- Baker-Smemoe, Wendy 2018 Peer Feedback. *The TESOL Encyclopedia of English Language Teaching*. New York: Wiley.
- Crusan, Deborah. & Matsuda, Paul. 2018 Classroom Writing Assessment. *The TESOL Encyclopedia of English Language Teaching*. New York: Wiley.
- Wiggins, Grant. 2012 Seven Keys to Effective Feedback. *Educational Leadership*, 70.

〈参考Webサイト〉

- Council of Europe Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment
<https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4>
(最終閲覧 2023年7月)